

表参道日記

『需給バランスって難しい』

文 伊藤公一

text by Kouichi Ito

根拠はないらしいが、我が国の3大国家資格は弁護士・公認会計士・不動産鑑定士と、弁護士・公認会計士・医師の2種類の説があるらしい。

私的には、当然、後者のグループが認められるほうが誇らしいわけだが、いずれの組み合わせでも文句の付けどころのない国家資格である「文科系の雄」弁護士の数が、司法制度改革による新司法試験制度により15年間で2万人から4万人に倍増し、現状の合格者数が続けばマキシマムで7万人にも及ぶと言われている。

そしてこれらの環境・事情の変化により、弁護士間の生き残り競争が激化し、過重労働が常態化していると聞く。医者の親戚のような存在である歯科医師についても、25校もの歯科大学が人口に比して明らかに多く、供給過剰となつて久しいものがある。

以前見られなかった光景だが、借金過払い者に呼びかける司法事務所のテレビコマースや車内広告。夜間・休日にもこうこうと灯りがともる歯科医院などが、最近やたらと目につくが、

明らかに状況が変わっているのであるう。

そのようなことを考えていたところに宅配最大手のヤマトが今月、宅配便の運送料金を27年ぶりに値上げする方針を明らかにした。

アマゾンなどネット通販の急拡大による配達荷物の急増から、ドライバーの過重労働が問題視された末の結果であるが、素人目にも当然の帰結に映る。

報酬は悪くないと聞くが、1日15時間労働、昼休みなしなどの労働条件が続けば、マッチョな健康男子でも、流石に知力、体力の限界を超えることであらう。

百貨店やスーパーマーケット、コンビニエンスストア、駅前ファッシュョンビル、ファミリーレストランも人手不足から営業時間短縮に向かっている。

これら便利な暮らしの象徴のようなビジネスモデルに変化が表れているわけだが、いずれも民間企業だけに法の呪縛は無いはずだ。

今まで都市生活者は、それらの職に

就く人々の犠牲的精神に支えられていた、あまりにも良質なサービスに甘え過ぎていたのかもしれない。

プレミアムフライデーに逆行しているような話だが、今の日本、どこに人が余って、どこに人が足りないのだろうか。

小生の生業である医師の定数問題については、あまりにもデリケートなので別号に、じっくりと記載したい。

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。東京女子医大、筑波大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳寺大学客員教授。日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。伊藤病院 www.ito-hospital.jp 大須診療所(名古屋分院) www.osu-shinryoujyo.jp

